

令和7年度 県立水戸特別支援学校 自己評価表

目指す学校像	◆一人一人を尊重し、笑顔で学べる学校 ◆安心して挑戦できる学校 ◆信頼される学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールでつながりのある企業、外部機関等との連携により、教育活動の幅を広げることができた。 ○授業づくりに関する話し合いの場を定期的に設定したり、ICTを活用したりすることで、児童生徒の主体的な取り組みや、自分なりに表現する態度を育むことができた。 ○学校生活アンケートを2回実施し、児童生徒の気持ちを受け止めながら、その結果を指導に生かすことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの取り組み等を児童生徒、保護者、教職員、地域に積極的に発信していく。 ・学校の課題を明確にし、学校運営協議会委員や保護者と連携し、地域を巻き込みながら課題解決に向けて取り組んでいく。 ・コンプライアンス委員会の充実を図るとともに、ヒヤリハット報告等を自分ごととして捉え、不祥事ゼロを目指して取り組んでいく。 	1 学習活動等	①教科等の指導の充実（授業改善研修・学校研究） <ul style="list-style-type: none"> ・「わかった・できた、もっと学びたい」授業作り ・教科等の指導と関連した自立活動の指導の充実 	A
	2 安心安全な学校	②児童生徒・保護者等との信頼関係に基づく学級・学年経営 <ul style="list-style-type: none"> ・安心して学べる環境作り ・学校事故等の未然防止 ③安全な医療的ケアの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、担任、看護職員の共通認識での実施 ④いじめや不登校の早期発見・解決に向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施やいじめ対策委員会の充実等 ⑤地域や関係機関、PTAと連携した防災活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・防災備品等の整備 ・学校防災連絡会議の活用 ・児童生徒、保護者視点での情報発信 	A
	3 地域連携	⑥コミュニティ・スクールの活用・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の拡充（児童生徒・教師の願いの実現化） ・情報発信の工夫 ⑦交流及び共同学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学び合う力の育成 ⑧PTAと連携した地域活動の推進 ⑨情報発信の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・HP、Xの充実 ・PTAとコミュニティ・スクールと連動した情報発信の充実 	B
	4 センターの機能	⑩センター的機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・お話しルームの活用・充実（校内） ・自立活動の視点を踏まえた助言・援助（校内外） ・適切な学びの場の検討に向けた助言（校内外） 	B
	5 学び続ける教師	⑪専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・教科等の指導力と自立活動の指導力の向上 ・教科等の指導と自立活動の指導の関連 	A
	6 働き方改革	⑫児童生徒のための時間作り <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の見直し及び改善 ・教材教具の共有化 ⑬心理的安全性のある職場環境作り <ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会の活用・充実 ・コンプライアンスの推進 	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	学校経営における重点目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・副校長・教頭、各部主事・校務分掌部長との連携 ・企画及び運営委員会(校務分掌部長・学年主任)での進捗状況、課題の確認 ・教員面談での確認 	①⑥ ②⑨ ④	B	○運営委員会に学年主任が入ることで、学年の状況が分かるようになり、部を越えて学校全体を考えながら、課題解決に向けた議論ができた。 ○各部の状況を確認し、活動内容の精選をしながら連携した校務分掌部の運営ができた。 ●企画及び運営委員会においては、先の見通しをもち、検討事項等を含み、計画的な運営ができるようにするとともに、更に、話し合いが深まるようにする必要がある。 ◇運営委員会開催日を調整し、検討事項等を事前に整理する等して、話し合いを活性化する。
教職員の 育成及び 指導・監督	教科等の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善研修の活用：「わかった・できた、もっと学びたい」授業づくり ・授業改善研修・学校研究の活用：教科等の指導と自立活動の指導の関連及び自立活動の指導力の向上 	① ⑪	B	○学校研究と授業づくりを絡ませ、計画訪問を活用しながら、各部の実態に応じた研修計画に沿って、「わかった・できた」「もっと学びたい」と児童生徒が思える授業づくりに取り組むことができた。 ○児童生徒の学びの充実に向け、次年度の教育課程について検討ができた。 ○整形外科相談やセラピスト訪問の活用により、自立活動の指導の参考になった。 ○避難時(地震)の安否確認方法や負傷者がした場合の対応について検討することができた。 ●学校教育目標の実現のために、どのような観点で授業検討をし、評価していくかを十分に共有する。 ◇学校教育目標から各部の目指す児童生徒像を明確にしながら、授業改善研修を進める。
対外活動	① コミュニティ・スクールの充実 ② センターの機能の充実	① コミュニティ・スクールの活用：教育活動の拡充(児童生徒・教職員の願いの実現化) ② 相談内容に対する適切な対応(校務分掌等の連携) ② 自立活動の視点からの助言・援助及び適切な学びの場の検討に向けた助言	⑤⑧ ⑥⑨ ⑦⑩	B	○コミュニティ・スクールを活用し、各部で様々な取り組みを考え、地域とつながることができた。 ○巡回相談(出向き相談)で、保育園、幼稚園、小学校に出向き、個々に合った支援方法について助言をしたり、校内の「おはなしルーム」等で、悩みのある児

					<p>児童生徒の話を聞いたりして、支援することができた。</p> <p>●地域人材の把握と活用に向けて、情報を収集する。</p> <p>◇HP等を活用し、児童生徒の活動を更に発信していくとともに、学校運営協議会を更に活用していく。</p>
コンプライアンス確保	不祥事ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーな話題での研修等の実施（トップダウン研修） ・組織的なコンプライアンス意識の向上（学年意識の向上） ・コンプライアンス委員会の充実と活用（ボトムアップ研修） ・見られる環境づくり（CSの活用等による来校者の集客） 	<p>②</p> <p>③</p> <p>⑬</p>	A	<p>○本校のいじめ防止基本方針についてパワーポイントを作成し、全職員に周知することができた。</p> <p>○情報の取り扱いやコンプライアンスに関して、研修の実施、言葉を掛けうこと等で、今まで以上に意識が高まった。</p> <p>●グンバ対応等を職員間で伝わりやすくするため、個人情報を考慮した放送内容等の検討を継続する。</p> <p>◇コンプライアンス研修のテーマについて、年間を通して計画的に設定し、研修内容を積み重ねていく。</p>
働き方改革	心理的安全性のある職場環境作り	<ul style="list-style-type: none"> ・トップダウン・ボトムアップ研修の両立 ・コンプライアンス委員会の活用・充実 ・管理職等における校内巡視の強化 ・教員面談での確認 	<p>④</p> <p>⑩</p> <p>⑫</p> <p>⑬</p>	B	<p>○係長会で情報共有をすることで、各係が連携し、計画的に業務を進めることができた。</p> <p>○外部講師による摂食指導研修会を実施。児童生徒が安心安全に食事ができるよう教職員の見方や支援方法を共有した。</p> <p>○日々、校内巡視を実施し、安全な環境の維持に努めた。</p> <p>●部活動以外の時間での練習に参加している教員の負担があった。</p> <p>◇部活動の練習日程や活動内容の見直しを段階的に行っていく。</p> <p>◇働き方改革の目的やねらいも含めた職員への周知、研修を行う。</p>
ICT活用	児童生徒一人一人の、学習活動及び生活を豊かにするタブレット端末の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に応じた、ICT活用研修実施 ・児童生徒の実態別ICT教材の蓄積・共有 ・ICT部と連携した教員研修の実施 ・授業参観及び教員面談等での確認 	<p>①</p> <p>⑪</p>	B	<p>○係が中心になり、個に応じて必要な機器の設定をしながら運営できた。</p> <p>○保護者や児童生徒、職員がオンラインで参観できる研修会を設け、実施することができた。</p> <p>●児童生徒の学びにつながるアプリ等の共有が必要である。</p> <p>◇アプリ等を探り、情報共有できるようにする。</p>

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない